

平成 21 年 4 月 1 日
大分県農林水産研究センター
安全農業研究所

ネギ黄斑病の防除対策について

2 月下旬に県北部の白ネギ産地において、黄斑病が発生した。この病気は、べと病、黒斑病およびボトリティス葉枯症と異なるので、間違えないように防除対策に取り組む必要がある。

1. 病気の特徴

- 1) 最初は、葉に白色や黄色の小斑点を生じ、その後楕円形となり、ひどくなると葉先が枯れる。また、斑点の表面には黒色の孢子（すすのように見える）が見られる。
- 2) 病原菌は、*Heterosporium allii* である。
- 3) 長雨時に多発する。
- 4) べと病との症状の違い
べと病は不鮮明な大型の病斑を生じるが、黄斑病は鮮明な小型の斑点を多数生じる。また、べと病の病斑の方が色が少し薄い。
- 5) 黒斑病との症状の違い
黒斑病は、大型で輪紋症状となるが、黄斑病は鮮明な小型の斑点を多数生じる。

2. 今後の対策

本病に登録のあるアミスター 20 フロアブルが効果的である。

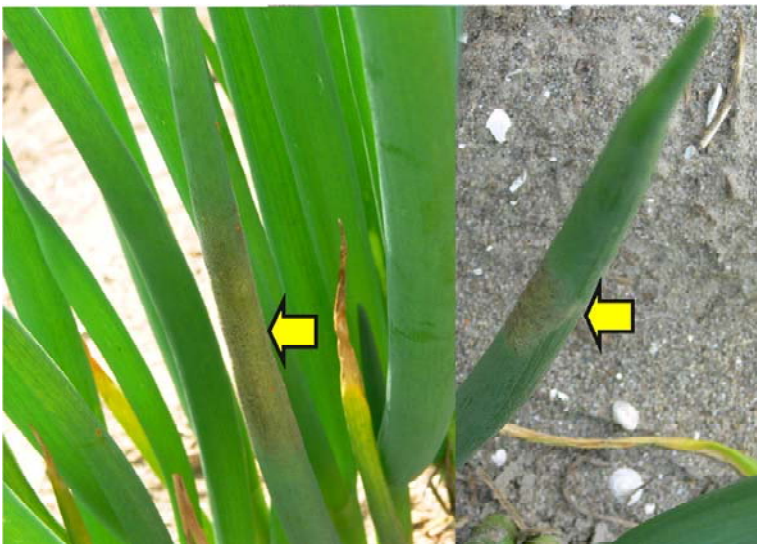
3. 薬剤散布に関する留意点

- 1) ネギは薬剤が付着しにくいので、散布時には必ず展着剤を使用する。
- 2) 詳しくは、大分県農林水産研究センター安全農業研究所ホームページ内にある「大分県主要農作物病虫害及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用すること。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)



ネギ黄斑病



ネギべと病



ネギ黒斑病